

1. 年末挨拶 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 会長 原田満洲夫

令和4年（2022年）今年も「里山ビオトープ二俣瀬」も維持管理を皆様のおかげで守る活動が出来ました事、厚くお礼を申し上げます。

昨年度活動の一部「稲作体験」を中止していましたが、新入会員によって“喝!”を入れて頂き再起動出来ました。収穫祭 Part-1 では篠崎宇部市長・Part-2 では河崎市議会議長をそれぞれお迎えして盛大に開催出来た事は二俣瀬地区にも世間一般にもアピール出来ました。又今年は子ザル来訪の対応と話題でもビオトープを賑わしてくれました。

我々「つくる会」の今後の永劫活動する上で、これらも特に会員の勧誘に大きく功をなしたと言えます。里山ビオトープ本来の活動も齢に鞭打って活動をしたり。規定活動以外の一部会員の賛同活動によって維持管理出来ています。厚くお礼を申し上げます。

来年（2023年）も引き続きお願い申し上げます。

2. 活動報告（事務局 記）

—11月27日（日）天気も良く、会員10名で、湿地帯のエコアップ（主にガマの除草）、市道の落ち葉清掃、水路の溝浚えの作業を行いました。

—12月17日（土）会員16名で、二俣瀬ふれあいセンターにて、収穫祭（餅つき）の準備をしました。二階の講堂床にブルーシートを張り、講堂にテーブルを設置し、米袋を張り付けました。餅つき機を設置し動作確認後に、洗米したもち米を二階ベランダに挙げて水を入れました、もち米を蒸すため、バーナー・かまど・釜・蒸し器などを設置しました。

—12月18日（日）餅つき会場が二俣瀬ふれあいセンターの二階の講堂で行われました。外では少し小雪が降る中で、子供たちは元気に餅を丸めてくれました。参加した親子に一人毎に一パックの餅を渡しました。参加者は、親子自然観察隊（親16名、子23名）、二俣瀬子ども会（親11名、子13名）、来賓の河崎市議会議長、二俣瀬市民センター長、山大学生2名、会員27名、会員家族3名の計97名でした。その後で、親子自然観察隊は解隊式を行いました。

—12月25日（日）天気を考慮し、10時から懇親会を主体に行いました。会員21名と永山酒造会長が参加し、来年度の活動計画と今後のビオトープのあり方など、和気あいあいと話し合いました。山田会員と横川会員提供の猪肉を中心に焼肉を行い、十分に堪能されました。今年最後の活動を終え、来年の活動も支障なく行えることを祈願します。

3. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

- 1月1日（日）正月休み
- 1月15日（日）維持活動（エコアップ）

4. 来訪者の声

今回はありません。

5. 会員の声 「コラム“継続は力なり”」 （原田満洲夫 記）

「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」が「里山ビオトープ二俣瀬」を創設されて自然的に「つくる会」となった若干の時間的ずれはあるものの平成12年より始まり現在まで22年間“文句ひとつも言わず”継続している事、世間に自慢できる事ではないだろうか。

「継続は力なり」と諺にもあるが本当に（力—チカラ）になってるか？ もう一歩ではないだろうか？ この諺は何でも長く続ける事によって

1) 技術の向上力、2) 知恵の向上力、3) 経費の節減や省力化 等々の“すべての力”であると思う。 それらを考えて継続で頑張りましょう！

6. 親子自然観察隊（収穫祭、解隊式）（菅 隊長 記）

天気予報では曇り～雪模様でお天気心配されましたが、やはり寒波からは逃げられず寒い一日となり、公民館の講堂を借りることにいたしました。おかげで朝の間は一時吹雪模様もありましたが、寒さに震えることもなく楽しくお餅つきを終えました。

2俣もついたのでありますがお餅つきは思ったより早く終わりました。おかげで片づけもきちんとして、そのあとの「昆虫クイズ」や「解隊式」もゆっくり行えて、皆さんもお餅やお菓子をいただいて笑顔で帰ってゆかれました。

9時からの開始に合わせ、地元の会員の皆さんは8時前より来られ、準備を行っていただきました、おかげさまで早く餅つきが終わったものと思われます。さらに親子自然観察隊、二俣瀬子供会の親子をはじめ大勢の参加により、餅を丸めるのが早く、お米を蒸かすのが間に合わないくらいでした。また隊員の子供たちも低学年だった子たちが高学年となり、丸める作業も早く上手になったように思われます。

1年間の行事もこれで無事終了いたしました。イベントは楽しいのですが、それを支える普段の維持作業なくしては成り立ちません。今年も多くの会員の方々に助けられ、無事に終えることができました、親子自然観察隊の隊長としてもこの紙面をお借りし、一言御礼申し上げます、ありがとうございました。

来年も稲作が継続されます、親子自然観察隊も同時に継続いたしますが、会員の皆様方も少しづつ高齢になられ、いつまで続けられるかわかりません。これが現在の現実です。1年1年を区切りに頑張っけてゆきたいと思っています、皆さん、よろしく願いいたします。



原田会長の挨拶



会員で来賓の河崎市会議長挨拶



搗き立てのお餅が来ました



みんなで丸めます



お餅つきを見学しました



丸めたお餅を運びました



お餅がたくさん出来上がりました



最後に昆虫クイズを行いました

親子自然観察隊の感想

★篠田（母）さん

餅つきではお世話になりました。子供たちの丸めるお餅は、初めは不格好だったけれど、慣れてくるとみんな上手に丸めるようになって。とても楽しかったと言っていました。帰りの車の中で、早速お餅を頬張る子供たち。美味しい美味しいと言いながら嬉しそうに食べていました。自分たちも一緒に稲を植えて稲刈りをして、そのお米で作られたお餅とあって、特別な思いで食べているように感じられました。一年を通して稲作に触れ、そこで生きる鳥や虫を学び、自然に触れ、貴重な経験をさせて頂いていることに大変感謝しております。今年の最後には自分達で作ったしめ縄を飾り、新しい年を迎えたいと思います。一年間大変お世話になり、ありがとうございました。

★溝邊睦

お餅を丸めるのは粘土みたいでとても楽しかったです！お餅のパック詰めの輪ゴムをつける作業も楽しかったです。

★溝邊義人

自分たちが田植えをして収穫し丸めたお餅はおても美味しいです。

★溝邊寛人

田植えも稲刈りも餅つきもとても楽しかったです。

★溝邊（母）さん

田植えから半年、おもちになるまでたくさんの方が手をかけてくださりいただくことができて感謝でいっぱいです。いつも楽しい経験をさせていただきありがとうございます。来年度もよろしくお願いします！

★秋田理莉

餅を丸めたりするのが楽しかったです。

★秋田菜那

虫のクイズが難しかったです。

★藤原（母）さん

今日もお菓子やストローまでいただきありがとうございました。私が、勝手にイメージで、もちろん杵とうすでやる餅つきだ、と言い切っていたのでちょっと皆でびっくりしました。でも皆で白くなりながら、たくさん丸めてわいわい楽しかったです！餅が熱々でやけどしそうなったけど楽しかった。クイズも楽しかった！！ありがとうございました。

★篠丸（母）さん

寒い中準備、後片付け等ありがとうございました。お餅をこねる作業は、初めはメロンパンのように割れ目がたくさんのお餅になっていましたが、熱いけど冷める前に形を整えないと上手くいかないなど終わる頃にはコツを覚えて手早くできるようになりました。地域の方とも交流でき楽しかったです。つきたてのお餅は柔らかく何個でも食べれました。昆虫クイズは一間間違えましたが、観察隊に参加する前と後では知識の幅が広がり身近に感じられるようになりました。約一年ありがとうございました！

★湯浅（母）さん

初めて参加した1年間でしたが、普段経験できない様々な体験をさせて頂き、毎月親子でステキな時間を過ごすことができました。最後にきちんと直接ご挨拶できず、申し訳ありませんでした。本当に本当にありがとうございました。

子どもたちの観察隊の感想です。

●友達と一緒にできて、楽しかった！

●自分で丸めたおもちゃを運ぶことが楽しかった！

普段なかなか経験できないことができ、毎回とてもイイ時間を過ごすことができました！ありがとうございました！来年も家族でぜひ参加したいと思うので、よろしく願い致します。

7. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(82) スナアカネ *Sympetrum fonscolombi* (Selys) トンボ科

このトンボも名前の通り海岸近くの砂浜に飛来しますが、海沿いのため池などに飛来し見つかります。もともと中国、インド、アフリカなどに多く、ユーラシア大陸より飛来したものが多く、日本国内では南西諸島に多く、石垣島や沖縄島などで見つかります。秋になると日本海側の海岸沿いで見つっていますが、筆者は2015年7月に阿武郡阿武町の“清が浜”で未熟な♂と♀を初めて見つけました。次いで2017年10月になって下関市吉母海岸で成熟した♂と♀をそれぞれ発見し、それ以後宇部市の海岸や山口市秋穂の海岸でも確認しています。2019年は全国的に日本への飛来数が多かったようで、数百頭単位で見ついています、山口県下関市の海岸でも十数頭を確認しましたが、2020年は1~2頭になってしまい、2021年の秋は確認できていません。

もともと日本におらず、毎年国外から飛来してくるトンボを”迷入種”と呼び、毎年調査しています。オオギンヤンマ、ナニワトンボ、タイリクアキアカネ、オナガアカネ、アメイロトンボ、マンシュウアカネ、ウスバキトンボ、タイリクアカネなどですが、ウスバキトンボやタイリクアカネはすでに県内ではたくさん羽化しているようで、迷入種とされるのが難しくなっています。



スナアカネ♂



スナアカネ♀



海岸の砂浜草地に静止するスナアカネ♀

8. 会よりの連絡事項

- 1) 今年の活動は25日懇親会にて、終了です。来年1月の活動は一回のみですが、気持ちも新たにして、どう作業し、どこを修復するかを話し合い行っていきましょう。
- 2) 懇親会で協議しました「来年度の活動計画案」について、基本的には今年度と同じ内容で、稲作体験と親子自然観察隊は行います。変わった点は、8月の活動で、
6日(日)親子自然観察隊、13日(日)維持活動、27日(日)維持活動としていましたが、3回を2回にして、お盆時期は中止とし、
6日(日)親子自然観察隊と維持活動、20日(日)維持活動となりました。
詳しいことは次回の1月15日の活動日に説明いたします。

9. 編集後記 (前田 歳朗 記)

今秋、私はエコアップの担当を辞することとなりました。最大の理由は、膝の痛みです。エコアップは、膝のあたりまで水につかって行う作業が主となります。膝には良くないと考え、決心した次第です。しかし、これ以外にも理由があります。ウシガエル(オタマジャクシ)の大量発生です。このことにより、私の心は折れました。

8月末に旧ハス田でオタマジャクシを見つけ、9月末に水を抜くなどして250匹を捕獲しました。後ろ足が生えたものが相当数を占めていることから、5月に産まれたものではないかと考えています。私にとっては、ショックな出来事でした。5月下旬から8月にかけて週に二回、ウシガエルの卵塊が無いか監視していたのですが。

原因としては、監視を開始する時期が遅すぎたのと、カンガレイ、オオカナダモが邪魔をして見逃したことが考えられます。オオカナダモが繁殖すると、水面が乱反射してウシガエルの卵との見分けがつかなくなります。このような状況を解消するためには、エコアップを充実させるしか方法はありません。複数の人員を専従とし、知恵を出し合いながら対応する必要があります。

エコアップの成果は目に見えませんが、手を抜けば、その結果は明らかになります。ウシガエルの大量発生が、これを示しています。蓮田の面積が小さかったため除去可能でしたが、ため池だったら不可能です。エコアップは、普段の点検、きめ細かな作業が必要となります。今後、エコアップを担う方は、このことを心掛けていただくことを希望します。